



横浜 DeNA ベイスターズ から育成 3 位指名

東京都市大塩尻高の今野投手を応援



歯の状態について説明を受ける今野投手

球団関係者や三浦校長らと来学
本学病院で口腔内検査とマウスガード製作

プロ野球のドラフト会議で横浜DeNAベイスターズから育成3位指名された東京都市大学塩尻高校の今野瑠斗投手が10月26日（水）、本学を訪れ教職員らと懇談した。本学は地元の高校からプロ入りする今野投手の活躍に期待を寄せ、口腔内検査とスポーツマウスガード製作で後押しした。

本学は、プロ野球のドラフト（新人選取）会議で横浜DeNAベイスターズから育成3位指名を受けた地元の大塚市から大塚市立高校・今野瑠斗投手を口内からサポートしようと10月26日（水）、今野投手らを本学に迎えた。文部科学省が掲げる、高校教育と大学教育を一連のものととらえて若者の学び・飛躍を支援する「高大接続改革」の取り組みの一環として、本学から口内検査とスポーツ用マウスガード製作を提案した。

今野投手は、横浜DeNAベイスターズの八馬幹典アマスカウトグループリーダーと横山道哉担当スカウト、東京都市大学塩尻高校の三浦章校長、佐久間和人野球部部長、長島由典野球部監督と本学を訪れ、宇田川信之歯学部長や校友会の原田寿久参与らと懇談した。宇田川歯学部長は来学を歓迎し、「地元からのプロ野球選手輩出は非常に嬉しく、活躍を期待しています」とエールを送った。今野投手は「口の中の健康も大切にして、まずは支配下選手に昇格できるように頑張りたい」と抱負を語った。

懇談後は病院に移動し、歯科補綴学講座の樋口大輔教授の診察を受けた。

樋口教授は、最新式の口腔内スキャナーを使って、今野投手にモニターで画像を示しながら口腔内を細かくチェックして現在の口腔内の状況を説明し、マウスガード製作に必要な印象採得を行った。



スキャナーを用いた口腔内の検査

ジカラーにちなんで、青を希望した。マウスガードは完成次第、今野投手に届けられる。

今野投手は東京都出身。身長

樋口教授は「スポーツ選手は歯が『命』。マウスガードを使うことで競技力を向上させられ、歯の健康も保持できる」などと話し、今野投手に口腔内の健康の大切さを丁寧に伝えた。

今野投手は「自分の口の中の状態を知ることができてよかった。マウスガードも今後必要になると思う。プロ野球選手になるので、しっかりと口の中の状態をよくして入団に備えたい」と笑顔を見せていた。樋口教授から希望するマウスガードの色を尋ねられた今野投手は、横濱DeNAベイスターズのイメー

今野投手は東京都出身。身長182センチ、体重86キロで、最速143キロの直球を投げる本格派右腕。プロ野球選手になることを夢見て同校に進学。地道な努力を重ね、チームの大黒柱に成長した。高校最後の今夏は甲子園出場こそ逃したものの、チームの準優勝に貢献し、実力を大いにアピールした。

本学は、今野投手のサポートを契機として今後、大学の専門性をさらに生かし、文科省の「高大接続改革」の方針に基づいて地域の高校に対して、さまざまな取り組みを模索し、推進していくことにしている。

今年度より、塩尻市在住で口腔状況が優良な高齢者や口腔ケアに積極的に取り組む介護者らを称える「しおじり優良口腔ケア表彰」が企画され、10月6日（木）に塩尻市健康福祉センタ―で表彰式が行われた。目的は塩尻市の住民の口腔ケアの推進であり、塩筑歯科医師会、市在宅医療介護推進協議会、口腔・摂食・嚥下関係委員会が主催し、本学は共催として協力した。

3部門とも市内の歯科医師の推薦を受け口腔・摂食・嚥下関係委員会では審査の上、表彰対象者を決定した。委員である筆者が式に参加し、介護保険事業所部門の表彰を担当した。今年度の対象者は16個人1団体で、保内科・吉成伸夫教授が推薦した2人、地域連携歯科・望月慎恭講師、田村瞬至助手が推薦したそれぞれ1人が含まれている。

式には7人の対象者とその家族が参列し、表彰状と記念品を満面の笑みで受け取り、「これからおいしく食べられるよう歯磨きを頑張ります」など喜びの声をあげていた。今回の取り組みが地域の住民の方々に口腔ケアの大切さをより浸透させるきっかけになることを期待している。

（地域連携菌科学講座 教授 龍島弘之）

高齢者部門、介護者部門、介護保険事業者部門に分けられ、高齢者部門は90歳以上、または75歳以上で現在鹵数20本以上の口腔ケアが徹底された要介護者が対象となる。介護者部門、介護保険事業者部門は要介護者の口腔ケアに積極的に取り組む家族やケアマネジャーが対象で、



主催者ならびに受賞者の皆さん

園児や衛生学院生がサツマイモ掘り

3種類で約1トンを収穫

桜や紅葉など、歯科大学内の木々も色づき始め、晴天に恵まれたさわやかな陽気の中、昨年に続き松本歯科大学が管理する約1500㎡の畑のサツマイモが収穫時期を迎えた。種類は「紅はるか、紅あずま、安納芋」の3種類。

10月18日（火）は、長野朝鮮
初中級学校附属幼稚園から園児
8人と先生4人が訪れ、収穫を

サツマイモ掘り

楽しんだ。園児たちは、つるを引くと続々と出てくるサツマイモに「こんなに大きい！」「たぐさん採れた！」と歓声を上げ、嬉しそうに収穫を体験した。昼食は大学内レストラン「雷鳥」で園児たちの喜ぶメニューを食べてもらった。デザートに、同じ畑で採れたサツマイモを使ったスイートポテトを提供したところ園児たちはおいしそうに頬



園児から届いたお礼の手紙

張っていた。後日、園児たちから手作りのかわいらしい、感謝の手紙が大学に届いた。

生19人により作業が行われた。
最初は恐る恐る掘っていた学生も作業に慣れ、こつをつかむと、芋を傷つけないように丁寧に収穫を行った。春に苗植え作業をした学生は、自分たちが手かけたサツモイモを格別な思いで収穫した。

今年の収穫量は全体で約1180kgだった。

収獲したサツマイモは昨年同様に、日本スコラ売店、学生食堂、フレンチレストラン、中国レストランにて、11月中旬から皆さんにも提供する。

(日本スコラ株式会社 神谷健太郎)

日韓関係に希望の光。超極秘会談のすべて

内閣官房 参与
松本歯科大学 常務理事
特命教授

飯島 勲

今月号は『プレジデント』11月4日号「リーダーの掟 飯島勲」より、日韓両首脳の超極秘会談についての記事を要約して紹介します。

今年も国連総会に行つてき
息切れが激しく、寿命が縮まる
た。毎年、首相のスピーチを聞
きだつた。

き、各国首脳との2国間会談が
ぎつしり詰め込まれたスケジュ
ールに気が遠くなりそうになる
のだが、私にとっては初秋の恒
例行事になっている。

私にとって最大のハプニン
グは、日韓首脳による懇談が実
現したことだ。この懇談が発表
されたのは、なんと総会の開催
時間5〜6分前だった。直前に

今回のニューヨークはハプニングがいろいろ起きた。まず、岸田文雄首相の車列が渋滞に巻き込まれて、首相が車を降りて歩く場面が見られた。私も他の同行者たちと一緒に、首相より早く次の目的地に着くべく、頑張つて歩いたのだが、岸田首相の健脚にはかなわず、途中で追い抜かれた。必死で歩いたのは何年かぶりということもあり、渡された資料では、「〇〇との懇談」という不思議な項目が入っていた。私も小泉内閣の秘書官となつてから、長年首脳外交の場に同行しているが、伏せ字の予定など見たことがない。いったい何が起きるのだろうかと思ひながら、懇談の会場に着いてみたら、相手はなんと韓国の尹錫悦大統領ユンシクエだったのである。韓国は戦略的利益を共有する

重要な隣国であることは間違いない。現在の不透明な国際環境を鑑みれば、日韓両国そして、日米韓の協力関係の進展が今以上に重要なのではない。

ご存知の通り、文在寅前大統領の時代に生じたさまざまな問題により、日韓関係は非常に難しい状態が続いている。文前政権は、中国や北朝鮮との関係を重視し、米韓同盟、日韓関係を蔑ろにしてきた。特に、日韓関

係は最悪だった。まず、慰安婦問題については岸田首相が外相として2015年にまとめた「慰安婦合意を文前政権が「法的拘束力がない」と反故にして以来、国際法違反の状況が続いている。さらに、旧朝鮮半島出身労働者（いわゆる徴用工）問題に関する国際法違反の大法院判決を「被害者中心主義」の名の下に放置。日本企業の資産現金化の動きが懸念されている。

文前政權は、これだけ日本に
対して無礼を働きながら、上辺
だけの関係改善を演出しよう



煽り、それに連動して日本国内でも騒ぎが起きて、両国の一部国民の感情的な対立が深まるといふ悪循環になっている。

それが、尹大統領の就任で風向きが変わってきた。まず、安全保障の面では、米韓合同軍事演習が拡充され、日米韓共同訓練も再開された。徴用工問題についても、尹大統領は自ら「日

本が懸念するような主権問題と衝突することのない解決策を「模索する」と述べている。韓国の国内事情を考えれば、画期的な発言である。尹大統領自身が国内政治的にリスクを負って、前向きかつ積極的に動くこととしてゐるのを感じる。

今回は、韓国側も完全に秘密が保たれ、大統領が自ら岸田首相が出席する会議の会場に足を運んできた。日本の信頼を取り戻そうとする尹大統領の本気が見えた。だからこそ、外交経験が豊富な岸田首相も、韓国側との懇談に応じたのだと思う。

懇談の場では、岸田首相が尹

大統領握手で出迎え、2人が向き合って会話が始まった。当初は10分間の予定だった懇談は、大幅に延長して30分間、両首脳

の意見交換が行われた。そして、懇談後、岸田首相はすつきりした柔らかい表情で現れた。尹大統領も同様である。これまでの緊張感が漂う両国首脳の対面とは全く違う雰囲気だった。

私の勘では、この懇談は日韓関係の転換点になると思うのだが、残念ながら日本国内ではあまり大きく報じられなかった。その理由の一つに、岸田首相の健脚がある。実は、懇談後にホテルに戻る際も、渋滞に巻き込まれて徒歩移動になったのだ。懇談が行われたのを知った取材

陣が慌てて岸田首相を追いかけたのだが、あまりに歩くのが速くて追いつけず、質問することができなかつたのである。

まだまだ、両国間の問題解決への道のりは遠い。しかし、困難な課題があるときこそ対話が重要である。

創立者の「視点」



9月27日、多くの国民の反対の声を押し切って、安倍晋三元首相の国葬が強行された。筆者にも暗殺者によつて突然に生命を奪われた政治家を悼む気持ちがないわけではない。

しかし、彼の生前の言動を改めて思い出すならば、当日も反対デモが展開されていた国民の声は無視されるべきものではない。統一教会との腐れ縁もきちんと説明される必要がある。

法政大学前総長の田中
優子さんは、国葬は政治
家の「将軍的欲望」（政
治学者の片山杜秀氏の言

葉」を肯定するものだと
して、10月2日の東京新
聞に「拝啓安倍晋三様」
と題した次のような文章
を掲載している。

「って叫んだあなたの目に、彼らは何に見えたのでしょうか。」「**『全員の共産主義者』**に見えていたのかもしれないと推測できます。終戦を知らずに森林で暮らした日本兵のように、冷戦の終結も共産主義

小児歯科が
あさひ保育園で口腔保健指導
長野県「こどもの健康週間」



歯科衛生士による歯みがき指導

科学講座)

「こどもの健康週間」の取り組みとして、10月3日（月）に朝日村のあさひ保育園で、園児約100人を対象に、本学歯科医師と歯科衛生士による口腔保健指導が実施された（主催…長野県小児保健協会、日本小児科学会長野地方会、長野県小児科医会 共催…松本歯科大学小児歯科）

指導は年少、年中、年長のクラス別に行われ、まず筆者より、むし歯の原因やブラークの有害性について、園児にも分かる言葉で説明を行った。その後、小児歯科の加藤那奈歯科衛生士と宮尾琴音歯科衛生士が、大きな口の模型や歯ブラシ、かわいいバイキン（細菌）のマスコット

などを使つて、歯ブラシの持ち方、歯に対する歯ブラシの当て方、歯ブラシの動かし方といった歯磨きにおけるコツを、時に園児との質疑応答も交えながら、優しい口調で丁寧に説明した。

様子が同局の番組「朝日村週間ニュース」の中で紹介された。本学病院には、今現在もいわゆる「低年齢児多数歯重症齲蝕症」の子どもが多数来院される。

このような取り組みをさらに継続、発展させることが、必ず将来の問題解決につながるものと確信をしている。

（小児菌科学講座 准教授 正村正仁）

（小児歯科学講座 准教授 正村正仁）

私立大学歯学部学生生活協議会を
本学主管で3年ぶりに開催

質クレマー」に對する基本的
心構えとして、①毅然とした態
度②確固とした信念と気概③
冷静なる対応④の3つが重要だ
とし、多くの職員が対応した経
験のある実例を交えながらわか
りやすく解説した。

協議会は参加校が持ち回りで開催し、来年度当番校は日本歯科大学生命歯学部が務め、本年度の次の開催は2039年となる予定。

私立歯科大学歯学部教員や職員が、学生の対応などについて情報や意見を交換する私立大学歯学部学生生活協議会が9月29日（木）、30日（金）に本学を主会場に開催された。学生対応で日頃苦慮されている教員・職員ら40人が参加し、地域住民との良好な関係づくりやコロナ禍での学生対応など、幅広く活発に話し合った。

大の影響により、対面での会議は3年ぶりの開催となった。初日の協議は、宇田川信之學学部長の司会進行により、日本私立歯科大学協会副会長で朝日大学学長の大友克之先生のあいさつで始まった。続く特別講演では、城西国際大学の兵頭英治副学長が『「悪質クレマー」について考える』と題し、大学のコンプライアンス経営力について説いた。兵頭副学長は、「悪



宇田川歯学部長の司会で会議は進行

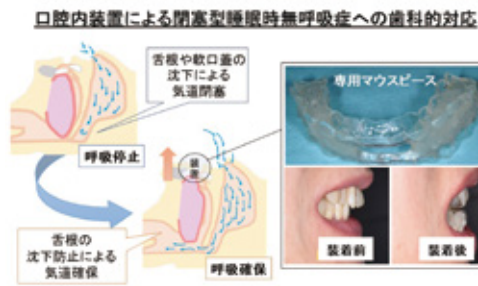
病院だより vol.45

いびき外来
閉塞型睡眠時
無呼吸症候群

いびき外来の対象疾患の睡眠時無呼吸症候群（SAS・Sleep Apnea Syndrome）は、睡眠中に呼吸減少や停止が生じ、その結果、体内の酸素濃度が低下し、脳が覚醒するなど睡眠が障害される病気です。日中の突然の眠気の特徴とし、交通事故等の社会的問題や、高血圧や糖尿病などの生活習慣病や心筋梗塞などの心疾患との関連も指摘され、その加療の有無が5

年生存率に影響することも報告されています。最近の研究では、患者は軽症も含めると全国に推定で2000万人いるとされ、SASは日本国民の6人に1人にその可能性がある国民病ともいえるかもしれません。SASは気道閉塞による閉塞型と、呼吸中枢の異常により呼吸自体が停止する中枢型に大別され、多くは閉塞型です。「いびき」は閉塞型の典型的な前兆で、肥満、飲酒、疲れなどが大きな原因となります。

簡単に閉塞型の治療法について説明します。治療の第一選択は、持続気道陽圧法（CPAP：Continuous Positive Airway Pressure）と呼ばれる医科の治療法です。酸素マスクのような装置で、気道を陽圧の空気で風船のように膨らませ気道を確保する方法です。テレビ報道等でお相撲さんが睡眠中に装着し



ているあれです。効果は確実ですが、煩わしさや違和感が強く、断念する方も多い治療法です。歯科では、主に中症度の患者や、CPAP離脱患者を対象として、専用のマウスピースで下顎前方に固定し、舌根沈下を抑え気道確保を行います。治療前にはまず、当院耳鼻いんこう科を含む医科の医療機関での検査

と、SASの診断と紹介状が必要となります。その後にいびき外来にて必要な検査を受けていただき、効果や副作用、注意点をとお話しします。また、本装置の効果は個人差があり、装着後に治療効果を見るため再度紹介元の医療機関を受診していただきます。歯が少なかつたり、歯周病が進行していたり、顎関節の症状がある場合には、適応が困難となる場合もあります。当院ではそのような患者様に対応するために、新たに口腔内装置を導入しています。

いびきをかく方は、本人の自覚がなく、家族などの周りに指摘されることが殆どです。まさに他人の迷惑を省みずですが、周りにそのような方はいませんか。いびき外来に関する詳細は病院地域連携歯科受付（☎0263・512117）へ。（地域連携歯科講座 講師 富士哲志）

14期生・大林由美子先生
多職種連携の取り組みについて講演
第2回病院セミナー

9月8日（木）、第2回病院セミナーが行われ、本学14期卒業生の大林由美子先生が「多職種連携の取り組み」を講演された。150人を超える病院職員が聴講した。



講演する大林先生

大林先生は1991年に本学を卒業後、すぐに香川医科大学（現香川大学医学部）歯科口腔外科に入局され、医学部病院の

中で歯科医師として様々な専門職のスタッフと連携をとりながら医療に携わってこられた。今から振り返れば、当時は全国的な多職種連携医療の黎明期を迎えており、「地域連携パス」「多職種カンファレンス」など、それぞれの専門職が協力して医療を行うための仕組みが作られていった。

（病院教授 川原一郎）

東京歯科大学理事長・井出吉信先生が特別講義
「暗記ではなく知識を関連付けて整理すること」



6年生に講義する井出先生

東京歯科大学理事長の井出吉信先生による第6学年を対象にした特別講義が10月7日（金）、本館602教室において企画・開催された。講義内容は「摂食・嚥下に関連した解剖学」で、学生たちに絶えず問いかけを行いながら、多角的な視点から知識を整理していく対面型講義を展開し、学生たちは感銘を受けていた。

井出先生は学生に「有床義歯がなぜ口腔粘膜に吸着し安定するのか」を最初に問われた。浴室などで使用される吸盤を例に示され、口腔と義歯の構造を比較検証して、義歯設計のポイントにまで踏み込んだ知識の整理を展開され、局所解剖学と臨床歯科医学の関連性をわかりやすく解説された。

さらに舌骨上筋群と咽頭筋群の知識の確認から摂食・嚥下運動の機構について、動画や静止画を駆使し、繰り返し視点を変えながら学生との間で問答を繰り返して、正確な理解を目指し、講義を展開された。また学生に「知識を暗記するのではなく、関連付けて知識を整理し、理解することが重要である」と力説さ

歯科放射線学講座・田口明教授
市民公開講座で骨粗鬆症と歯科の関係を語る

10月20日は「世界骨粗鬆症デー」で、骨粗鬆症および骨代謝障害による病気の予防について国際的に認識し診断し専門研究を促すことを目的に国際骨粗鬆症財団（IOF）と世界保健機構（WHO）により制定された。これに先立ち10月15日（土）、信州大学医学部運動機能学教室の中村幸男特任教授が発起人となり、イオンモール松本で「骨

粗鬆症 市民講座」が開催され、本学歯科放射線学講座の田口明教授と岡谷市民病院整形外科の鴨居史樹医師が講演した。



講演する田口教授

田口教授は「骨粗鬆症から歯を守る」と題して、骨粗鬆症と歯科の関係について詳述した。骨粗鬆症患者は歯を失うリスクが高く、歯を抜いた後の治りも悪いこと、また、歯周病によつて骨粗鬆症のリスクが高まり、骨粗鬆症治療薬の効果も抑

制されることを明らかにした。さらに、歯科で撮影するパノラマX線写真によつて骨粗鬆症の疑いがある患者をスクリーニングする方法を自らが確立し、世界のスタンダードとなつて骨粗鬆症患者の発見に貢献していることを紹介した。

骨粗鬆症によつて椎体や大腿骨近位部を骨折すると寝たきりを招く原因となり、元気に自立して生活できる期間を短くしてしまう。鴨居医師は、人生100年時代に向けて骨粗鬆症の予防策として、ビタミンDやカルシウムの摂取、有酸素運動を心がけ、骨の検査を受けることなどを挙げた。また、「骨粗鬆症は歯周病と相関関係があり、口腔ケアをはじめ、田口先生が確立したパノラマX線写真による潜在患者の早期発見など、歯科と医科との連携を深めていきたい」と強調した。

講義終了後、学生を代表して長尾将平君が「この度は我々のために遠路ご来学くださりありがとうございます。知識を関連付けて理解することの重要性にあためて気づきました。有益な講義に感銘を受けました。井出先生のお話は新鮮で興

味深く、知識も深まりました。将来に向け、皆で協力しさらに努力精進致します」と感謝の言葉を述べた。その後、井出先生を囲んで学生全員と記念撮影をおこなった。

講義を終えた井出先生は「私の質問に対し学生が適切に答え、教職員の丁寧な指導に加え、

松本歯科大学の学生たちはよく勉強に励んでいることがわかった」と感想を述べられ、帰路に就かれた。

学生たちがさらに理解を深め、卒業に向け、国家試験に向け、伸び伸びと努力研鑽することに大きく期待したい。

（解剖学講座 教授 金銅英二）

周囲への感謝を忘れず
ひたむきな努力を誓う
衛生学院戴帽式



笠原学院長からキャップを授かる

松本歯科大学衛生学院歯科衛生士学科の戴帽式が10月12日（水）、本館7階講堂で行われた。笠原悦男学院長が、約1年にわたる臨床・臨地実習を目前に控えた2学年の29人に、歯科衛生士の象徴でもあるキャップを贈った。

宇田川信之歯学部長と矢島安朝病院院長も列席し、学生たちが歯科衛生士としての自覚と誇りを持ち、さらに技術や知識、経験を深めていくにつれて、これからの期待を込めて、それぞれあいさつした。

第2学年を代表して、大月くるみさんは「常に周りへの感謝を忘れず、より多くの技術や知識、向上心を持って、ひたむきな精神で努力していきます」と決意を語った。

第2学年の臨床・臨地実習期間は、10月下旬から来年9月下旬まで続く。

からの周術期口腔機能管理へとつながっていった。

講演では造血細胞移植治療中の口腔粘膜炎や骨粗鬆症治療薬投与患者にみられた顎骨壊死などの症例を供覧しながら、歯科口腔外科の介入の重要性と困難さを示し、多職種連携の有用性をわかりやすく解説した。

「幹の会」と呼ばれる香川県血液疾患多職種連携チームの研究会は、大林先生が発展に尽力した多職種連携モデルとして我々に多くを示唆した。

第2回FD研修会

広仁堂医院・百瀬 篤院長
相澤病院・池田隆一医療連携センター長

病診連携と多職種連携を解説

介された病院にて「専門性の高い診療」を行うことが重要であり、これが「病診連携」であると説明された。そして、連携室スタッフは最も優秀な職員が担当すべきであること、医療機関からの依頼に対しては、症状別紹介マニュアルの作成も重要であることを示された。また、診療所と病院診療科との「診診連携」こそ重要であり、それぞれの間の信頼関係の構築が大切である。

病診連携と多職種連携は診療における基盤であり生命線である。本学教職員の質を高めることを目的としたFD（ファカルティ・ディベロップメント）研修会が9月30日（金）本館6階601教室で「病診連携と多職種連携の重要性」についての内容で、百瀬 篤先生（広仁堂医院院長）と池田隆一先生（相澤病院医療連携センター長）を迎えて開催された。

「多職種連携」については、百瀬先生が塩尻市在宅医療介護連携推進協議会会長として取り組んできた要介護者の口腔管理と摂食嚥下における「医科歯科連携」（医師・歯科医師・歯科衛生士・看護師・ケアマネジャーのチーム化）を今後更に積極的に取り組んでいくことが本学の使命であるとした。「口腔と健康」に関する知識の啓蒙および「患者情報」の収集は、地域包括ケアシステムの成功を導き、我々は「医療と介護のない



質問に応じる池田先生（左）と百瀬先生

所には住めない」と強調された。そして、各病院のポジションニングと経営戦略を今後自ら策定することの重要性を示された。

池田先生は、相澤病院が開設した医療連携センターの構築に、診療所医師ひとりひとりの信頼を勝ち取るための地道な努力が基盤になっていることを説明された。そして、医療連携センターの運営には紹介状に對してきちんと返書を書くことという基本的な対応の徹底化、様々なカンファレンスや勉強会・懇談会を開催することの重要性を

示された。

日本における人口あたりの医師・看護師数は世界的に決して少ないわけではないが、ベッドあたりの医師・看護師数はかなり少ない現状である。これを解決するためには、急性期病院の機能分化、医療提供体制の効率化を行うことが必須である。現在、日本における患者の医療個

人データは、保険請求データのみならず、DPCデータとして厚労省にすべて報告されている。つまり、厚労省は各医療機関の運営・経営状況を把握しているわけである。そのような状況の中で、各医療機関の存続・生き残りのためには、各部門部署のひとりひとりが担当分野を自ら解析・改革していくことが

重要である。このことは、病院のみならず本学の運営基盤の強化に直結することは言うまでもない。

今回の講演は、職員の質を向上させることを目的としたFD研修会の内容として素晴らしいものであり、自分を含めた今後の行動改革を期待したい。

（歯学部 宇田川信之）

大学と病院で防火防災訓練 火災・地震に備えて対応を再確認

松本歯科大学と松本歯科大学病院で10月14日（金）、防火・防災訓練が行われた。大学側と病院側に分かれて、万が一の事態に備えて初期消火や、避難誘導の方法などを細部にわたり実践的に確認、訓練した。

訓練は、大学職員対象の防火・防災訓練と歯学部・衛生学院の学生の避難誘導訓練・自衛消防隊行動訓練、および病院関係者

に対する消防用設備の取り扱い説明と避難誘導訓練・自衛消防隊行動訓練、をそれぞれ目的とし、順次実施した。

大学の訓練には、職員と学生ら約180人が参加した。職員らは最初に旧動物実験室跡地に集まり、消火器使用の要点となる「風上から、手前から奥へ、下から上へ」といった説明を受け、体験用の火元に消火剤を放



消火体験をする職員

射して消火する訓練をした。その後、本館では操作方法の違う2種類の消火栓からの放水体験や、本館南棟4階屋上にある斜降式救助袋を使つての降下訓練なども行い、消火や避難の基本を学んだ。

学生の訓練では、歯学部1年生が火災を、衛生学院1年生が地震をそれぞれ想定し、本学の自衛消防隊の教員や職員の誘導で、落ち着いて速やかに教室から屋外への避難を体験した。自衛消防地区隊通報連絡班班長の安藤宏准教授は「スムーズな避難ができた」と講評し、いろいろな場所で日ごろから、非常事態を想定して、安全確保や避難の方法を確認するよう助言していた。

今回の訓練では、新しい試みとして、病院の警備室内にホワイボードが設置された。各現場から入る状況報告を逐次ホワイボードに記載し、本部で全体状況が一目でわかるようにして行い、より円滑な進行に努めた。



病院の避難誘導訓練

大学院セミナー

実験動物用マイクロCTの有効利用について

8月28日（日）、日本歯科大学歯学部放射線学講座教授の新井嘉則先生を講師にお迎えし、大学院セミナーが開催された。

新井先生は、日本歯科大学歯学部を修了後、日本歯科大学助手、日本歯科大学歯学部放射線学講座教授、松本歯科大学大学院教授を経て、現職に至っている。先生のご業績のひとつとして本学在職中の2006年に実験動物用マイクロCTを開発されたことがあげられる。

本学ハイテクセンターでは先生の研究の結晶であるプロトタイプの実験動物用マイクロCTを所有してきたが、近年では専ら管理、使用していた研究者の



講演する新井先生

退職もあり、せっかくの装置が有効に活用されているとは言えなかった。

今回のセミナーでは、新井先生が開発された実験動物用マイクロCTの特性、開発経緯をはじめ、特に従来のマイクロCTにはなかった本装置の特色、利点に基づく有効利用について講演をいただいた。

新井先生は、まず本装置はプロトタイプでありながら製品化されたものよりも高スペックのX線管を使用しているために装置の性能としてはいわゆるchampion dateを記録した機器であることに言及され、従来のマイクロCTは撮像時間や被爆の問題で実験動物を生きた状態で観察することが困難だったことを克服することが開発の起点となつて小動物が入るだけの大きなチャンバーで設計し、動物を屠殺せずに吸入麻酔薬をチャンバー外から導入できるようにすることで、同一動物での長期経過を観察することができるようになっただけでなく、結果

として実験動物の数を抑制することになったとお話になった。新井先生の本装置を用いたこれまでの研究では、歯周病の骨欠損の状態やT1インプラントの結合状態の観察だけでなく、合着材の厚さの測定や咬耗の状態の観察などその高い解像度による経時の変化に着目した点から臨床的研究にも広く応用できることについて言及された。

質疑では早速、大学院生から動脈硬化モデル動物での病態評価応用の可能性についてなど自身の研究に活用しようとする積極的な質問が多く聞かれ予定の時間を超過する盛会となった。午後からはハイテクセンター3階の実機を用いて新井先生にインスタラクターをお願いし、実際に装置の起動、撮影条件の設定とラット頭蓋骨標本を用いて

撮像、記録までができるように実務者講習会を開催した。

講演会に続き、熱の入った展開に新井先生も予定の電車を急遽変更することとなった。今回のセミナーは日曜日の終日を使用している開催となったが予想を上回る多くの参加者があり、今後の研究に大いに有効活用されることと思われた。

（病理学講座 教授 村上聡）

お知らせ

日本顎咬合学会理事長で、本学歯科理工学講座の黒岩昭弘教授が大会長を務める、第40回日本顎咬合学会学術大会・6支部学術大会（合同開催）「シン・顎咬合学」は、11月1日（火）～11月24日（木）の24日間、全てWebオンデマンドで開催される。

Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



twitter



Instagram



facebook

人事異動

【採用】
10月1日付
今井 由布子 法人総務課 契約職員
【配置換え】
10月7日付
塚原 美穂 手術室看護師 契約職員

24日(木) 大学院発表会
27日(日) 学校推薦型選抜(公募制)指校
29日(火) 校友子女選抜
IV期試験(第6年度)

11月行事予定

1日(火) 総合型選抜I期・編入学選抜I期
2日(水) 留學生選抜(C) 合格者発表
6日(日) 一日体験入学(歯学部)
9日(水) 総合型選抜I期(衛生学院)
10日(木) 総合型選抜I期(衛生学院) 合格者発表
大学入試I期 合格者発表

11月6日(日) 開催時間 9:30～15:00 (受付 9:00～)
●キャンパスツアー ●ランチ体験
●模擬実習 ●入試説明 ●進路相談 など
※参加希望の方は、本学ホームページまたは下記までご連絡ください。
■お問い合わせ■
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室
www.mdu.ac.jp